

練馬区消防団運営委員会事務局
(練馬区危機管理室防災推進課)

令和6年度第1回練馬区消防団運営委員会議事要録

1 日時

令和6年8月26日(月)15時30分から16時30分まで

2 会場

練馬区役所本庁舎7階防災センター

3 委員長および委員の出欠状況

(1) 出席者

前川委員長、小林委員、おじま委員、柴崎委員、浅沼委員、上野委員、國分委員
かわすみ委員、鈴木委員、白石委員、石黒委員、山田委員、ももかわ委員、
大住委員、有海委員、佐藤委員、青柳委員、加藤委員、榎本委員

(2) 欠席者

なし

4 議事内容(要旨)

(1) 開会

【練馬区危機管理室長(司会進行)】

令和6年度第1回練馬区消防団運営委員会を開催する。

(2) 委員紹介

(委員の紹介)

(3) 委員長挨拶

(委員長の挨拶)

(4) 諮問事項の確認

諮問事項「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」

(5) 議事

【事務局（光が丘消防署警防課長）】

(資料について説明)

練馬区内消防団員を対象に実施したアンケート調査の結果をもとに、方策案について説明。

【練馬区危機管理室長（司会進行）】

以上の説明に対し、ご質問、ご意見等は。

【委員】

アンケート結果から消防団に新しい方、若い方に入っていただくことがポイントかと思う。YouTube や SNS を使った広報、駅前等での広報などをすでにお考えかと思うが、消防団の現状を踏まえ、団員若返りと必要人材の確保という募集広報を念頭に方策案をまとめていただくのがよろしいと思う。

【事務局（光が丘消防署警防課長）】

ご指摘の通り、練馬区消防団員の年齢は特別区の平均よりやや高いという傾向である。今後、若い団員の入団に向けた効果的な広報に取り組んでいきたい。

【委員】

活動環境の改善に向けた方策について、LINE 等の活用とあるが、東日本大震災の時は全く携帯が繋がらなかったと記憶している。その際、無線を活用すべきと話があったと思うが、LINE は災害時でも通信は可能なのか。

【事務局（光が丘消防署警防課長）】

大規模災害時に LINE が 100%使える保証はないと認識している。通信状況、環境にもよるが停電等が起こると使えない可能性もある。その点では、MCA 無線によ

る情報伝達等も活用して、様々な災害時の情報連絡手段を確保したいと考えている。

【委員】

無線はかなり効果的だと思われる。配置の仕方もお考えいただきたい。

【事務局（光が丘消防署警防課長）】

了解した。MCA 無線の配置台数の増強についても答申に反映させたい。

【委員】

アンケート調査で団員数 698 名のうち回答率 62.6%とあるが、消防団員向けのアンケートとしては回答がやや低いのではないかと。残りの方の意見も反映出来たらよかった。団員として回答頂くという強い姿勢も必要だったかと思う。

次に質問だが、スターリンクについてどのような状況か教えていただきたい。

【事務局（光が丘消防署警防課長）】

ご指摘の通り、回答率については 62.6%という形になった。各団にアンケートをお願いしたが、周知期間、回答期間の設定が短かったのが要因と思われる。

スターリンクについては、震災時にも有効な通信手段の一つとして使えるのではないかと一般的に言われている。現状は意見の一つとして捉えている。

【事務局（練馬区防災推進課長）】

練馬区にも東京都から 1 台配備された。どのように運用していくかを検討している。携帯の基地局が災害時にダメージを受けた場合等に非常に有用だと認識している。

【委員】

スターリンクの件、能登半島地震の時も効果があったと聞いている。有効に活用していただきたい。

私の印象もあるが、消防団員として継続したいと思える組織の活性化方策で操法大会を含めた訓練にやりがいを感じている方が多いと感じた。今の消防団員のなり手不足の課題として、操法大会を含めた日々の訓練の時間が取れないことが一つあると認識していた。比較的高い割合で訓練にやりがいをもって操法大会にも臨むという前向きな回答が多いと感じた。

練馬区の消防団員は特別区の平均年齢 50 歳より 2 歳高い年齢層であり、各団の年齢構成で見ても 10 代から 30 代が圧倒的に少ない状況にある。操法大会は

走るパートも多く比較的若い方が出場している印象だが、今後の方策案で、災害活動の経験や操法大会の参加というものをより一層促していくよう示されている。将来的にみて、この年齢構成が高くなると、若い方が参加しやすい環境にしていかなければ、操法大会の維持はより一層難しくなるのではないかと思う。このアンケート結果と現実の運営の部分で少し乖離を感じているが、事務局の見解をお聞かせいただきたい。

【事務局（光が丘消防署警防課長）】

操法大会を含む訓練へのやりがいという回答が実際の印象と違うという質問かと思うが、アンケートに回答頂いた方は、勤続年数が長い方が多かったと思われる。これまでの経験の中で操法大会の練習や実災害の活動をされた方が回答者として多く、操法大会の訓練等に関してやりがいがある、という回答結果につながったと考えている。

ご指摘のとおり、若い団員についても魅力的と感じ、やりがいを感じる方策が必要と認識している。

【委員】

比較的勤続年数が長く、50代以上の方が多くことで操法大会にやりがいを感じたという意見が反映されたのかと思われる。10代～40代の方、特に会社に入って社会生活が始まったばかりの若い方たちからみると、毎朝早朝や会社が終わってから集まるなど、なかなか参加しづらく、団の活性化や新入団員の加入率低下につながる数字が見えづらいアンケート結果になっている可能性がある。そのことも認識したうえでぜひ、今後の方策の取りまとめを検討していただきたい。

【委員】

若い世代の方たちがいかにして継続的に団員として在籍していただけるかは課題である。学生の方が入られたとしても、自分の学生生活や就職活動などの目先の活動が忙しく、消防団の活動になかなか参加できず退団を選択するという継続しづらさがある。消防団のファミリーイベントや家族への理解というのは既婚者の方々が中心になっているが、やはり若い世代にそのまま継続して残れる仕組みが強調されると、方策案の中でも幅広い課題の解決につながると思われる。

YouTube に関してだが、若い世代は視覚から情報を入手する方が多いので画像的のものは重要で大切である。しかし、消防団で作り上げると練馬区の分団数や

地域エリアのような形で作るより、まずは消防署単位くらいで消防団の練馬バージョンを作っていくのがよろしいかと思われる。

若い世代の加入、継続は喫緊の課題なので若い世代をターゲットに固めていくのがポイントかと思う。

【事務局（光が丘消防署警防課長）】

了解した。ご指摘の若い世代への方策を追加するよう修正し、次回提案する。

【委員】

活動環境の改善に向けた方策についてだが、現有資機材の中で改善の必要があるものは何かという設問で、タブレットに被服要求システムの導入と記載されているが、これは何か。また今までどういった形で要求を受け付けてきたのか。

【事務局（光が丘消防署警防課長）】

被服要求システムは消防団の制服、活動服等について個人でサイズが違うものを要求するシステムだが、今は紙ベースで要求を受けて消防職員がシステム入力している。分団に配置されているタブレット端末に同様のシステムを導入すれば、団員自身が簡単に要求でき、確認しやすく間違いも少なくなるという趣旨である。

【委員】

新しく入った人が途中でやめていくことはよくあることと認識している。せっかく新しい人や若い方が入っても1年たたないうちに退団するということがある。色々な事情があると思うが、思っていたのと違う、仕事や学校が忙しくなるなど一概に「何が」というのは難しいが、どういう事情があるのかを調べて、そこを対応すると長く在籍して頂けると思う。

新しく入った方は誰と相談していいのか、例えば、副分団長や部長、家が近い人など、誰かに相談することも遠慮してできない場合もあるだろう。そのあたりの対応をしていただきたい。

YouTubeの配信は非常にいいことで、操法大会の勉強にもなる。ぜひ発信を続けていただきたい。

【事務局（光が丘消防署警防課長）】

ご指摘いただいた若い入団したばかりの団員へのサポート体制についても参考にする。

【委員】

いかに若い人たち入ってもらうかは、操法大会のことをはじめ消防団の活動の持続可能性を確保していくためにも非常に重要なことだと考える。

資料を確認すると「やりがい」という言葉が書かれており、本日も議論に含まれていると思うが、最近の若い方は「やりがい」で動くのかは疑問である。最近の若い方と話していると、より客観的でメリットとかを重視するような傾向にあると思われる。例えば、取得できる資格、就職・転職に有利になるなど、本来そうあるべきではないと思うが、消防団活動の持続可能性を担保していくため、若い人たちに継続して活動してもらうには、そういったメリットの部分を強調していく必要がある。「やりがい」は入団してから感じるもので、入団前から感じることは難しいのではないか。メリットについてしっかりと強調していく必要があると思う。

【事務局（光が丘消防署警防課長）】

ご指摘の通り若い方を入団させるために色々な策を講じていかななくてはならないと思う。一つの例として、就職活動に有利になる特別区学生消防団活動認証制度というものがある。そういったもので大学生等の特別区消防団への入団を促進している。本制度を周知してメリットとしてアピールしていく。

【委員】

アンケート調査結果から特に回答が多かった内容をさらに強化していくという方向性で方策が構成されているかと思う。

例えば、消防団員として継続したいと思える組織の活性化方策について2つの質問をしている。継続したいと思える組織の活性化という視点も当然大事であるが、逆に、継続したいと思えない、継続できない環境にあるという方も少なからずいるだろう。団員としての活動を継続したいがなかなか難しいという方々の声も拾いあげていかなければならないと思う。

消防団の方を拝見し、皆さん志を持って入団されて活動しているかと思う。これからも消防団の活動を続けていきたいという思いを大事にしていくという点で、環境の変化など様々な形に対応し、消防団活動を継続できる取り組みというものを検討いただければと思う。

【事務局（光が丘消防署警防課長）】

ご指摘の通りである。退団の抑制に向けた様々なサポート、相談体制等についても検討していきたい。

(5) 代表消防団長挨拶

【光が丘消防団長】

消防団代表挨拶

(6) 事務連絡

【事務局（光が丘消防署）】

事務連絡

(7) 閉会

【練馬区危機管理室長】

以上で本日の消防団運営委員会を終了する。